

大牟田市立みなと小学校

1 本校のESDの特徴

本校では、校区に隣接する世界文化遺産である「三池港」を軸に据え、宝の海「有明海」や石炭産業を中心とした市の発展に大きな役割を果たした「三池港」の歴史や人々の思いについて学び、これからの持続可能な社会貢献のために自分たちにできることについて、総合的な学習の時間を中心に海洋教育の学習を行っている。

3年生から6年生までの4年間で、海洋教育の4つのコンセプト「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」を系統的・段階的に設定し、「有明海」や「三池港」の見学・体験活動を通して、そのよさや魅力について知り、海を守り、よりよく利用していくために自分たちにできることを考え、実践を行っている。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

1年「さあみんなできかけよう」(生活科)

- ・自分と自分の周りの関係に気づく。

2年「レッツゴー町たんけん」(生活科)

- ・地域の人やもの、行事に親しむ。

3年「有明海の生き物を知ろう」(総合)【海に親しむ】

- ・有明海の生き物を調べる。
- ・有明海干潟体験 ・「うみまつり」を開く。

4年「三池港環境を守ろう」(総合)【海を守る】

- ・環境保全の大切さを学ぶ

5年「三池港ってどんなところ」(総合)【海を知る】

- ・三池港の歴史、役割、クルージング・見学 ・三池港子どもガイドブック作り

6年「有明海・三池港の魅力を発信しよう」(総合)【海を利用する】

- ・有明海・三池港の魅力を伝える方法について考える。
- ・ミニチュアやクイズ、展示、グッズ作り等にまとめて発信する。

学年	3年	4年	5年	6年
単元	有明海の生き物を知ろう	三池港の環境を守ろう	三池港ってどんな所?	有明海・三池港の魅力を発信しよう
キーワード	海に親しむ	海を守る	海を知る	海を利用する
内容	干潟体験 有明海の生き物	有明海・三池港の環境保全	三池港の歴史・魅力	有明海・三池港の魅力を発信
子どもに習得する体験知識	・干潟の楽しさ ・タイラギの生態 ・ワラスボの生態 ・ムツゴロウの生態等	・三池港のゴミ問題 ・海水浴場の様子 ・三池港保全への貢献 ・貝殻や流木を利用した小物作り等	・三池港の歴史 ・世界遺産としての価値 ・夕日 ・夜の工場 ・釣スポット等	・まち作りの視点 ・三池港・有明海の魅力等
発信	☆みなと小祭り ・有明海の生き物の生態をいかしたゲームの企画	☆貝殻・流木を利用した小物の販売 ☆三池港環境保全ポスター	☆三池港子どもガイドブック ・三池港の歴史 ・釣れる魚の紹介 ・景色の楽しさ	☆ミニ三池港フェスティバル ・小物作り体験コーナー ・三池港物語 ・海の幸を生かした食べ物の企画

【みなと小学校 海洋教育の流れ】

3 特徴的な活動事例

<事例1 第3学年 総合的な学習の時間>

(1) 単元名 「有明海の生き物を知ろう」

(2) ねらい

○干潟観察会や有明海で採れる魚や地域で消費されている魚について調査活動をして、干潟の楽しさを感じたり、有明海の生き物図鑑を作成したりする。また、干潟の生き物の特徴を生かしたゲームを考え、「うみまつり」を開催することができるようにする。

(3) 実践の展開

【課題設定】

- ①有明海の干潟に行き、干潟で遊ぶ楽しさを感じたり、有明海に生息する生き物について関心を持ったりする。
- ②天領小学校の「うみまつり」へ行き、有明海の生き物について関心を深める。



【干潟観察】

【課題追究】

- ①社会科の学習と関連させ、スーパーに売られている魚の種類を調べたり、お店の方にインタビューをしたりして、地域で消費される魚の種類について調べる。
- ②図書の本やインターネットを使ったり、お家の方にあずねたりして有明海に住む生きものについて詳しく調べる。
- ③有明海に住む生き物や干潟について調べたことをカードにまとめて、生き物新聞にまとめる。

【行動・発信・振り返り】

- ①クラスでまとめた新聞をユネスコスクール集会や学習発表会で掲示する。
- ②有明海の生き物について調べたことをゲームにし、天領小学校の児童を招待して、「うみまつり」を開き、学習したことを、楽しみなが伝える。
- ③学習を振り返り、有明海的环境を守ることの大切さを実感するとともに、もっと詳しく有明海のことについて調べていきたいという意欲を持つ。

<事例2 第6学年 総合的な学習の時間>

(1) 単元名「有明海・三池港の魅力を発信しよう」



(2) ねらい

- 大牟田市が抱える課題に目を向け、近代化遺産で学んだ三池港と他の近代化遺産とのつながりや、これまでに海洋教育で学習してきた有明海や三池港の魅力を発信するための企画を考え、「ミニ三池港フェスティバル」を開催することができるようにする。

(3) 実践の展開

【課題設定】

- ①近代化遺産見学を行い、石炭をキーワードにした近代化遺産のつながりや100年先の大牟田のために何が必要か考える。
- ②有明海や三池港の魅力を発信するために自分たちができることを話し合い、計画する。

【課題追究】

- ①「ミニ三池港フェスティバル」に向け、これまでの海洋教育の内容や有明海や三池港の魅力を発信する企画を考える。
- ②役割を分担して「ミニ三池港フェスティバル」の準備をする。
 - ・環境問題コーナー
 - ・有明海の生き物クイズコーナー
 - ・有明海や生き物の写真展示コーナー
 - ・閘門や三池港のミニチュアコーナー
 - ・生き物や閘門のグッズコーナー等



【有明海・三池港の魅力を説明】

【行動・発信・振り返り】

- ①みなと小児童や地域の方を招いて「ミニ三池港フェスティバル」を開催したり、ユネスコスクール集会や学習発表会で展示したりする。
- ②学習を振り返り、自分たちの学習の価値を実感する。

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」をテーマに、系統性を意識した取組を行うことができた。

○課題

- ・海洋教育推進校として実践事例を記録・蓄積し、他校や次世代の教員へ広め繋げていく。
- ・地区公民館や地域との連携を深め、地域コンソーシアムを形成していく。